

上町台地で真田幸村ゆかりの地を巡るタンデム自転車ツアー

世界初!?!タンデム自転車流鏑馬 (やぶさめ)

「大坂の陣」400年にちなんで、「上町台地で真田幸村ゆかりの地を巡るタンデム自転車ツアー」を2014年11月30日に開催しました。ツアー出発前には、世界でおそらく初となる「タンデム自転車流鏑馬」に挑戦。これは、後ろの席の人が、並んだパイロンをめがけて、タイヤの輪投げをするというもの。考えるだけでオモシロイ! バランスをくずさないよう、前の席の人と息をあわせて投げるのがコツ。「スポーツとして広めていけるのではないか?」「パラリンピック公式種目をめざそう」と野望も膨らみます。ツアーは大阪城を出発地に、越中井、三光神社、安居神社などをまわりながら、紅葉も楽しみました。

あおぞら財団 鎗山 善理子



自転車の国際会議がフランス・ナントで開催。 御堂筋 サイクルピクニックを世界にアピール!

ECF (ヨーロッパ・サイクリスト連盟) が主催する自転車の国際会議ヴェロシティ 2015 が、6月2~5日の4日間、フランスのナント市で開催された。同会議は、世界各国から自転車政策を進めたいと考えている、行政、企業、NGO、研究者などが集い、互いに情報・意見を交換し合っている。そんな会議に、当会を代表し、大阪の自転車事情・当会設立の経緯・御堂筋サイクルピクニックなどの市民の取り組みを報告してきた。同会議では、観光、インフラ整備、都市計画、ビジネス、自転車文化など、様々なテーマの分科会が行われる。お国の事情や交通環境は異なるけれど、「自転車っていいよね!」、「うちはこんなやってるよ」といった前向きな報告が多く、互いに協力し合って、自転車の利用を進めていこうという雰囲気。他にも、アートやグルメに絡めた自転車ツアー、市民も参加する自転車パレードの実施、企業による展示会などが行われ、様々な「自転車の楽しみ方」を体験できる場になっている。当会の取り組みと似てること、参考になることがたくさんあった。海外の各都市は、交通手段としての自転車を政策的に普及しようとしている。大阪も利用だけみれば既に世界的な自転車都市だ。交通教育やインフラ整備を進めながら、名実ともに、世界的な自転車文化都市にしていきたい、と思ったのでした。

あおぞら財団 藤江 徹



発行者 自転車文化タウンづくりの会
発行所 〒551-0013 大阪市西淀川区千舟 1-1-1 あおぞらビル 4F あおぞら財団内
発行日 2015年 6月28日
TEL 06-6475-8885 / FAX 06-6478-5885
Mail webmaster@aozora.or.jp



市民も参加する自転車パレードは、いろんな自転車に乗った老若男女がナント7,000人! 親子や子どもの参加が多かったのが印象的。旧市街地も駆け抜ける。



ナント市内で実施されていた子ども自転車教室。



Midousuji Cycle Picnic 発表中

まちこぐひと

自転車文化タウンづくりの会

ニュースレター vol.10

第8回御堂筋サイクルピクニックによせて。

今年は大坂夏の陣から400年という節目の年であり、大阪市内のランドマークである大阪城の歴史を少しでも知っていただけるコースとして大阪城外堀周回コースを企画させていただきました。現在の大阪城と豊臣時代の大阪城の外堀の規模はまったく異なる大きさです。現在の城域面積で割れば、おおよそ3.81倍が当時の大坂城であったと考えられています。当時の大坂城の外側を周回するおよそ12kmを当時の武将になった気持ちで、大阪城の周りを走ってもらい当時の「大坂」を感じてもらえるコースでした。

コースは東横堀川から空堀商店街に沿って走り、真田丸のあった真田山で左折、大阪城内を通過し、大手前で休憩し観光ボランティアの方から大阪城の説明を聞き、中ノ島公園に戻るコースでした。自転車で大阪市内を観光すると車や鉄道では見ることができない景色を見ることができます。自転車のさまざまな観光コースが設定され、自転車専用レーンが今まで以上に整備されれば、大阪がエコで活気あふれる都市になり大阪の自転車文化の発展につながると思います。

桃山学院中学校・高等学校 阪本純治



第8回 御堂筋 サイクルピクニック

2015.4.19(日) 10:00~15:00

御堂筋サイクルピクニックは、「自転車の適正な利用(ちゃんと走ろう!)」「御堂筋に自転車レーンをつくらう!」を社会にアピールする活動を行っています。自転車が本来走るべき車道を走行することを通じて自転車マナーの啓発をする新しい取り組みです。今回のサイクルピクニックでは、啓発のための「アピール走行」で御堂筋の車道を走行。そのあとに催される「ピクニックツアー」で真田幸村コース、毛馬の閘門コース、大阪城外堀周回コースに分かれてピクニックを楽しみました。本会場では出展企業による珍しい自転車の試乗会やグッズの販売があったり、子どものための自転車教室「ウィーラスクール」が開催され、親子で自転車を楽しむことができるイベントになりました。アピール走行の参加人数は200名、イベント全体の参加人数は500名、ボランティアスタッフ74名となり、回数を重ねるごとに少しずつ協同者が増えています。また協賛企業・団体11社、出店企業・団体19社と、多くのご支援を頂いております。



こどもの笑顔で思い出した自転車に乗る喜び

第8回御堂筋サイクルピクニックにカメラマンとして参加しました。

こども自転車教室には、自転車にはまだ乗れない幼児から乗り慣れない小学生までが参加するもので、一本橋やスラロームなど、大人でも難しいコースが用意されていました。参加者の様子を見ていたところ、ペダル無し自転車でキックして進むストライダーに乗って、お父さんのサポートを受けながら何度も一本橋を繰り返し練習しているどちらかというおとなしめの男の子がいました。うまくできなくて当たり前な状況のなかで、彼の表情からは緊張や不安が読み取れていたのですが、何度も繰り返し練習したあとに、最後に一回だけ笑顔になった瞬間がありました(写真)。成長過程で誰もが経験したことのある大切な瞬間ですが、私は忘れていました。自転車に乗れるようになるってこういうことなんです。自転車に問題が多いからといってこの瞬間をなくしていくべきでしょうか?ちゃんと自転車に乗れる場や環境を整えていくのは大人の責任であり、この笑顔の瞬間を胸に刻み、引き続き、自転車利用環境の改善に取り組んでいきたいと思います。

大阪市立大学 吉田長裕



御堂筋サイクルピクニックは「やさしさ」いっぱいのイベントだ!

サイクルピクニックでは、初めて出会ったメンバーが10人ほどのチームを組んで御堂筋を走ります。みんなで習った「手信号」を使って、歩行者や車に気をくばりながら、整然と走り抜けます。そして不思議なことに、走り終わると、みんなが「やさしい顔」になっています。なぜか走ったメンバーだけでなく、歩行者や車、そして都市の環境に対しても「やさしい」気持ちになるのです。この「やさしさ」は、街の中でお互いの存在を認めあい、思いやるところから育まれるのでしょうか?サイクルピクニックは、誰もが「やさしくなれる」イベントです。そうだ、次回は僕の妻も是非参加させよう! 清水 保宏



サイクルピクニックリーダー講習会



歩行者も自転車も安心して通行できる環境づくりを目指して『御堂筋に自転車レーンを!』アピールするため、御堂筋サイクルピクニックのアピール走行が始まった。私も当初からリーダーを担当したが、参加者が増加する中で10名を引率するリーダーの確保が大きな課題となってきた。一方指名されても「リーダーの役目はなんですか?」という質問も上がり事務局からの依頼で「走行リーダーマニュアル」を作った。これは自転車博物館時代に得た知識と経験に基づいたものだ。しかし、多少自転車経験があるだけのリーダー予定者にマニュアルを渡すだけでは不十分であり、実際にコースを走る講習が必要だ。道を覚えるだけでなく、左折車線のある車道で安全を確保して直進する。正しく安全と言える正解がないのが日本の道路事情である。こうした道路環境だからこそサイクルピクニックが必要なのだと思う。今年からリーダー会を結成し毎月一回実際のコースで走行講習を始めた。人を引率することは自分も多きを学ぶことになる。ぜひご参加を!

堺 自転車のまちづくり市民の会 中村 博司

第7回から創部50年を超える関西大学自転車部のOB 会顔合わせの場として、10名前後で参加させて頂いております。

大学時代に日本全国を旅した者も、競技に没頭した者も、世代を越えて今一度、「御堂筋サイクルピクニック」の参加を通じ、地元大阪の地で交流を深めたいの思いと、あわせて「アピール走行」の参加で、「御堂筋に自転車レーン設置」がひろがり、年々増加している自転車事故の減少の一助になればと考えております。

関西大学体育会自転車部 OB 会 (関輪会) 事業部長 藤村 勇人

